

定年退職後、永年の夢だった「仏教伝来の跡をたどりたい」の思いが強く、その実現に向けて計画した。

最初に道元禪師の歩んだ道、遣唐使ゆかりの町、寧波より天童寺を訪ね、中国、シルクロードを東より西に旅を続けた。西安より、蘭州、酒泉、敦煌、トルファン、ウルムチと訪ね、天山山脈を目前に見た。広い荒涼としたゴビ砂漠をジープで走ったり、歩いてみたが、何のさえぎるものもない熱砂の中を馬やラクダに乗ってとぼとぼと歩き続けていた、求法の僧たちの姿が浮かんでくるようで胸が詰まる思いがした。

また、砂漠の中のアアシスがいかに生物の生命を育み、水と緑がこんなにも大切なものか身にしみて感じる。さらに進んでインドの仏跡を訪ねる。沐浴で有名なベナレス・ガンジス河のほとりで、インド人の沐浴を見、あちらこちらに昇る白い火葬の煙を見て、今自分は別世界にいるような錯覚を覚える。信仰に対する深い感動を味わった。夢はさらに西方カシユガルへと続く。



さて、話は変わり日常生活にもどるが、自然の中にどっぷりつかり土の臭を感じながらの野菜作り、手を加えただけ結果が明確に出る。子育てと同じなのかな、「野菜作り入門」を参考に、暇を見つけては畑に飛び出す。最近はおさるさんとの知恵くらべ、何をどこに作れば被害を避けることができるか、情報を集め対応する。

おじいちゃんの作った野菜は、有機栽培、無農薬だと自慢して孫に送る。「お店のものより新鮮で美味だ」なんて言われ自己満足。連作をきらう作物については、作付けの図面を記録しておかないと一年後には作付け場所を忘れてしまう。野菜作りは天候に左右されるので毎日が試行錯誤の連続だ。

土曜日の夕方、近隣の子どもが習字のお稽古に集まる。一つの目標に向かって努力する子ども達の瞳は輝いている。六十の手習いではないが、子どもに負けじと頑張りたい。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



生涯学習の必要性は激しく変動する現代社会に対応するための社会的な要請で、今の時代では当然のことと受け止められています。

しかし、それは大人社会の都合(?)で生涯学習の入門期にあたる小学生本人は、まだまだそんな必要性を自覚して生活しているわけではないでしょう。

では、実際はどうなのでしょう。小学生の生活実態調査をしました。その中で生涯学習にかかわる項目がありました。それを紹介し生涯学習への発展を予想してみます。

聞いたのは小学校高学年です。勤務する学校は小規模ですから人数は少なめで全部の小学生を代表する意見ではないでしょうが、どこでも似たような傾向はあると思います。

まず、将来の夢となりたいもの(職業)について聞いた項目の回答です。男子の回答は職種が少なかった5種しか書いてありませんでした。しかもほとんどが「プロスポーツ選手」に集中していました。女子の回答は保母さんをはじめとして具体的な職業をたくさん希望し種類も多く、20種ほどになっていました。なかには複数、希望する子もいました。

その項目には続きがあるのです。「それになるために、どのような努力をしなければいけないか」という質問です。回答はある程度予想した通りでしたが「勉強をする、練習をする、そのための訓練をする」と9割の子が前向きな回答でした。

次に「習い事」と「趣味(スポーツを含んで)」を「現在しているか」と「将来にわたってしてみたいか」を聞いてみました。そうすると8割の子が、現在まで何らかの習い事をしてきており、さらに「大人になってもスポーツをしたい、習い事をしたい、趣味を生かして生活したい」と回答してきました。

簡単な調査で結論づけできませんが思った以上に子ども達は夢を持ち、生涯学習の第一歩として将来に向け前向きに学習を続けようと考えているのではないのでしょうか。

